

# 入札公告（建設工事） 一般競争入札総合評価方式（施工体制確認型）【簡易型】

次のとおり一般競争入札に付します。

平成22年4月30日

分任支出負担行為担当官

沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所長 上原 勇賢

## 1. 工事概要

- (1) 工事名 平成22年度福地ダム下流洪水吐設備外補修工事（電子入札対象案件）
- (2) 工事場所 沖縄県国頭郡東村字川田中上原地先
- (3) 工事内容

【工種】	【種別】	【数量】
ダム用水門補修設備製作	下流洪水吐設備	1式
	取水設備	1式
補修設備輸送工	輸送工	1式
ダム用水門補修	ダム用水門補修工	1式
	現場塗装工（機械）	1式
	足場支保工（機械設備）	1式

- (4) 工期 契約締結日の翌日から平成23年3月31日まで。
- (5) 本工事は、施工計画等に関する技術資料を受け付け、価格以外の要素と価格を総合的に評価して落札者を決定する総合評価方式の適用工事のうち、品質確保のための体制その他の施工体制の確保状況を確認するとともに、施工内容を確実に実現できるかどうかについて審査・評価を行う施工体制確認型総合評価方式の試行工事である。
- (6) 本工事は、地元企業を1次下請（県内元請企業を含む）として活用することを評価する地元1次下請活用比率評価の試行工事である。
- (7) 本工事は、提出資料、入札を電子入札システムで行う対象工事である。なお、電子入札システムによりがたいものは、発注者の承諾を得た場合に限り紙入札方式に変えることができる。
- (8) 本工事は原則として、当該入札の執行において入札執行回数は2回を限度とし、それまでに落札者がいないときは、予算決算及び会計令（以下「予決令」という。）第99条の2の規定に基づく随意契約には移行しない。
- (9) 本工事は、入札時に工事内訳書の提出を義務付ける試行工事である。
- (10) 本工事は、開発建設部での過去2年度間の同一工種における低入札工事の工事成績が一定の点数未満の場合は総合評価の得点を減点する試行工事である。
- (11) 本工事は、総価契約単価合意方式の対象工事である。本工事では、受発注者間の総務性の向上とともに、契約変更等における協議の円滑化を図るため、契約後受発注者間の協議により総価契約の内訳として単価等を合意することとする。  
なお、本方式の実施にあたっては、「総価契約単価合意方式実施要領」及び「総価契約単価合意方式実施要領の解説」に基づき行うものとする。

総価契約単価合意方式の実施にあたっては、請負者の希望により、単価等を個別に合意する方式（以下「単価個別合意方式」という。）又は、単価を包括的に合意する方式（以下「単価包括合意方式」という。）を選択できるものとする。なお、協議開始から14日以内に「単価個別合意方式」による単価合意が成立しなかった場合は、「単価包括合意方式」にて行うものとする。

## 2. 競争参加資格

次に掲げる条件をすべて満たしている有資格業者であること。

- (1) 予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）（以下「予決令」という。）第70条及び第71条の規定に該当しない者であること。
- (2) 沖縄総合事務局における平成21・22年度一般競争（指名競争）参加資格のうち「機械設備工事」の認定を受けていること（会社更生法（平成14年法律第154号）に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法（平成11年法律第225号）に基づき再生手続開始の申立てがなされている者については、手続開始の決定後、沖縄総合事務局長が別に定める手続に基づく一般競争参加資格の再認定を受けていること。）。
- (3) 会社更生法に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法に基づき再生手続開始の申立てがなされている者（上記(2)の再認定を受けた者を除く。）でないこと。
- (4) 資料の提出及び入札等を全て電子入札システムで行える者であること。
- (5) 施工計画が適正であること。（提出された施工計画、「施工上配慮すべき事項の技術的所見」で不適格な事項があればその企業は失格とする。）
- (6) 平成7年度以降に、元請けとして完成・引渡し完了した工事で、次の要件を満たす同種工事の施工実績を有すること（共同企業体の構成員としての実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）。ただし、経常建設共同企業体にあつては、構成員の1社以上が次に掲げる施工実績を有すること。

なお、当該実績が沖縄総合事務局開発建設部及び国土交通省が発注した工事のうち入札説明書に示すものに係る実績である場合にあつては、評定点合計が入札説明書に示す点数未満のものを除く。

次の要件を満たす施工実績を有すること。

- ・ ダム放流設備の製作・据付又は補修工事の施工実績を有すること。
- (7) 次に掲げる基準を満たす主任技術者又は監理技術者を当該工事に専任で配置できること。また、配置予定技術者が、現在他の工事に従事している場合、契約締結時に当該工事に専任で配置できること。
    - 1) 1・2級土木施工管理技士もしくは、これと同等以上の資格を有する者であること。なお「これと同等以上の資格を有する者」とは次の者をいう。
      - (ア) 技術士法による第2次試験のうち技術部門を機械部門又は総合技術監理部門（選択科目を機械部門に係わるものとするものに限る。）とするものに合格した者。

- (イ) 学校教育法における大学、短期大学又は高等専門学校において機械工学に関する学科を修めた者で、卒業後3年以上の機械設備工事の実務経験を有する者。
  - (ウ) 学校教育法による高等学校において機械工学の学科を修めた者で、卒業後5年以上の機械設備工事の実務経験を有する者。
  - (エ) 機械設備工事の10年以上の実務経験を有する者。
- 2) 平成7年度以降に、上記(6)に掲げる工事の現場に従事した経験を有する者であること（共同企業体の構成員としての実績は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）。ただし、経常建設共同企業体にあつては、構成員のうち1社の配置予定技術者が施工実績を有すること。その場合、経験年数は限定しない。
- また、配置予定技術者として複数の候補技術者を申請できるが、この場合は配置予定技術者の資格・実績等が一番低いと判断された者で評価する。（※ ただし、一人でも資格が認められない者がいた場合は欠格とし、工事への参加は認めない。）
- なお、当該工事の経験が沖縄総合事務局開発建設部及び国土交通省が発注した工事のうち入札説明書に示すものに係る工事の経験である場合にあつては、評定点合計が入札説明書に示す点数未満のものを除く。
- 3) 監理技術者にあつては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。
  - 4) 1)について(イ)～(エ)の内容で申請する場合は、経歴書（自由様式）を提出すること。
- (8) 沖縄総合事務局開発建設部（港湾空港関係除く。）発注工事で当該工種「機械設備工事」における過去2年度の工事成績評定点の平均点が2年連続で60点未満でないこと。
- (9) 競争参加資格確認申請書（以下「申請書」という。）及び競争参加資格確認資料（以下「資料」という。）の提出期限の日から開札の時までの期間に、沖縄総合事務局長から「沖縄総合事務局の工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（昭和60年8月6日付け総会計第642号）に基づく指名停止を受けていないこと。
- (10) 上記1. に示した工事に係る設計業務等の受託者、又は当該受託者（出向元及び派遣元含む）と資本若しくは人事面（出向及び派遣含む）において関連がある建設業者でないこと。（入札説明書参照。）
- (11) 入札に参加しようとする者の間に資本関係又は人的関係がないこと。（資本関係又は人的関係がある者のすべてが共同企業体の代表者以外の構成員である場合を除く。）（入札説明書参照。）
- (12) 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、沖縄総合事務局発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。
- (13) 競争参加資格確認のため、添付を義務づけた資料の添付がなく、記載内容の確認ができない場合は、書類不備により、参加資格の確認が出来ないとして失格とする。

### 3. 総合評価に関する事項

#### (1) 入札の評価に関する基準

総合評価に関する評価項目は、次のとおりとするが詳細については、入札説明書による。なお、オーバースペックについては評価しない。

- ・ 企業の基礎技術力等に係る「施工計画」「企業の施工実績」「配置予定技術者の能力」「地理的、社会的条件」を評価する。
- ・ 地元1次下請活用比率（県内企業を下請として活用する比率）を評価する。
- ・ 施工体制（品質確保の実効性、施工体制確保の確実性）を評価する。

※オーバースペック事例（品質の向上、長寿命化の技術提案等、過度なコスト負担を要すると判断される技術提案）

#### (2) 総合評価の方法

##### 1) 基礎点

入札説明書等に記載された要求要件を実現できると認められた場合には基礎点として100点を与える。

ただし、施工体制評価点が0点の場合は、基礎点を0点とする。

##### 2) 加算点

技術資料の内容に応じて得点を与え、加算点に換算する。なお、加算点の最高点は40点とする。

##### 3) 施工体制評価点

施工体制に関する資料の内容に応じて、施工体制評価点を与える。

なお、施工体制評価点の最高点は30点（品質確保の実効性15点、施工体制確保の確実性15点）とする。

##### 4) 総合評価

価格及び技術資料等に係る総合評価は、予定価格の制限の範囲内の入札参加者について、1)、2)及び3)により得られる基礎点、加算点及び施工体制評価点の合計を、当該入札者の入札価格で除して得た数値（以下「評価値」という。）をもって行う。

#### (3) ヒアリングの実施（施工体制の審査）

入札参加者のうち、その申込みに係る価格が予決令第85条に基づく調査基準価格（入札説明書の別紙を参照のこと。）に満たない者については、どのように施工体制を構築し、それが施工内容の実現確実性の向上につながるかを審査するため、原則として、開札後速やかに、ヒアリングを実施する。また、併せて、調査基準価格を超える者についてもヒアリング（電話での確認行為）を実施することがある。

なお、ヒアリングの日時、場所、資料等は入札説明書による。

#### (4) 落札者の決定方法

落札者の決定は、次の1)から3)の要件に該当する者のうち、(2)によって算出された評価値の最も高い者を落札者とする。なお、評価値の最も高い者が2人以上あるときは、当該者にくじを引かせて落札者を決定する。

1) 入札価格が予決令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内であること。

- 2) 評価値が基礎点を予定価格で除した数値に対して下回らないこと。
- 3) 提出した施工計画及び入札価格に基づき、本工事を確実に実現できること。  
(以下「要求要件」という。)
- (5) 評価内容の担保  
技術資料に提示された「施工上配慮すべき事項の技術的所見及び県内企業下請活用比率表」に記載された内容を遵守することについては、契約書に記載するものとする。受注者の責により評価した内容が満足できない場合は、工事成績評定を減じる措置を行う。
- (6) その他の詳細については入札説明書による。

#### 4. 入札手続等

- (1) 担当部局  
〒905-0019 沖縄県名護市大北3丁目19番8号  
沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所 総務課 総務係  
電話0980-53-2442 (代表) (内線) 212
- (2) 入札説明書の交付期間、場所及び方法  
入札説明書を電子入札システムにより交付する。交付期間は、平成22年4月30日(金)から平成22年5月14日(金)までの土曜日、日曜日及び祝祭日を除く毎日9時00分から17時15分までとし、平成22年5月14日(金)は12時00分までとする。  
ただし、やむを得ない事由により、書面による交付を希望する場合は、上記(1)担当部局にて交付するので、あらかじめ連絡すること。
- (3) 申請書及び資料の提出期間、場所及び方法  
平成22年5月6日(木)から平成22年5月14日(金)までの土曜日、日曜日及び祝祭日を除く毎日9時00分から17時15分まで電子入札システムにより提出を行うこと。  
ただし、平成22年5月14日(金)は12時00分を期限とする。  
なお、申請書及び資料が、3MBを超える場合の提出方法等については、入札説明書による。ただし、発注者の承諾を得た場合は、平成22年5月6日(木)から平成22年5月14日(金)までの土曜日、日曜日及び祝祭日を除く毎日9時00分から17時15分まで、上記4.(1)に持参又は郵送すること。ただし、平成22年5月14日(金)は12時00分必着とする。
- (4) 入札及び開札の日時及び場所並びに入札書の提出方法  
入札書は、電子入札システムにより提出すること。(ただし、発注者の承諾を得た場合は紙により持参すること。)
  - 1) 電子入札システムによる入札の締め切りは、平成22年6月21日(月)12時00分。
  - 2) 紙により持参の場合は、平成22年6月21日(月)12時00分。  
沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所 総務課 へ持参すること。
  - 3) 開札は、平成22年6月22日(火)10時00分。  
沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所 入札室 にて行う。

## 5. その他

- (1) 手続において使用する言語及び通貨  
日本語及び日本国通貨に限る。
- (2) 入札保証金及び契約保証金
  - 1) 入札保証金：免除。
  - 2) 契約保証金：納付（保管金の取扱店 日本銀行那覇支店、名護代理店）。ただし、利付国債の提供（保管有価証券の取扱店 日本銀行那覇支店、名護代理店）又は金融機関若しくは保証事業会社の保証（取扱官庁 沖縄総合事務局開発建設部）をもって契約保証金の納付に代えることができる。また、公共工事履行保証証券による保証を付し、又は履行保証保険契約の締結を行った場合は、契約保証金を免除する。
- (3) 入札の無効  
本公告に示した競争参加資格のない者のした入札、申請書又は資料に虚偽の記載をした者のした入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする。
- (4) 落札者の決定方法  
予定価格の制限の範囲内で、上記3. に定める方法に従い、評価値の最も高い者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあると著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内で、上記3. に定める方法によって算出された評価値をもって入札した他の者のうち、評価値の最も高い者を落札者とすることがある。  
なお、落札者となるべき者の入札価格が予決令第85条に基づく調査基準価格を下回る場合は、予決令第86条の調査を行うものとする。（入札説明書を参照のこと。）
- (5) 配置予定監理技術者の確認  
落札者決定後、CORINS等により配置予定監理技術者の専任制違反の事実が確認された場合、契約を結ばないことがある。なお、種々の状況からやむを得ないものとして承認された場合の外は、申請書の差し替えは認められない。
- (6) 専任の監理技術者の配置が義務づけられている工事において、調査基準価格を下回った価格をもって契約する場合においては、監理技術者とは別に同等の要件を満たす技術者の配置を求めることがある（入札説明書参照。）。
- (7) 本工事に経常建設共同企業体として申請書を提出した場合、その構成員は、単体として申請書を提出することはできない。
- (8) 手続における交渉の有無  
無。
- (9) 契約書作成の要否  
要。

- (10) 当該工事に直接関連する他の工事の請負契約を当該工事の請負契約の相手方との随意契約により締結する予定の有無  
無。
- (11) 関連情報を入手するための照会窓口  
上記4.(1)に同じ。
- (12) 一般競争参加資格の認定を受けていない者の参加  
上記2.(2)に掲げる一般競争参加資格の認定を受けていない者も、上記4.(3)により申請書及び資料を提出することができるが、競争に参加するためには開札の時に於いて、当該資格の認定を受け、かつ、競争参加資格の確認を受けていなければならない。
- (13) 本案件は、提出資料、入札を電子入札システムで行うものであり、対応についての詳細は、入札説明書による。
- (14) その他、詳細については入札説明書による。